

any

ars nova yamaguchi

「エニー」

autumn 2008
Oct.—Dec.

66



5年分の
アルバムを
のぞいてみよう。

特集 山口情報芸術センター5周年

特集

03 5年分の
アルバムを
のぞいてみよう。
山口情報芸術センター5周年

ピックアップイベント

08 気持ちが高揚する秋

山口情報芸術センター
meets the artist 2008
ツアー・パフォーマンス「山口市営P」
山口の商店街を演劇的視点でめぐる

パフォーマンス公演「Op.∞」
チェロ×ダンス×テクノロジーのコラボレーション

中原中也記念館
企画展Ⅱ「美と痛み—大和保男の陶と中原中也」
時を超え、現代の陶芸作家と中出会おう

山口市市民会館
ミュージカル「サウンド オブ ミュージック」
トラップ一家の歌声がアルプスの山々に響きわたる

12 any通信

- ◎アーティストボイス 野村 誠 (音楽家)
- ◎お先に試写しました 「ホウ・シャオシェンのレッド・バルーン」
- ◎いただきます ケーキセット (カフェレストラン「ティアラ」)
- ◎GOOD GOODS 「IMAGINARY CHUYA / 映像としての中也のことば」DVD
- ◎My Favorite 足立明男 (山口情報芸術センター館長)

14 イベントカレンダー 10～12月
INFORMATION



山口情報芸術センターは、展示スペース、劇場、ミニシアター、市立中央図書館を備えた複合施設として2003年11月にオープンしました。これまで国内外を問わず多くのアーティスト、関係者、スタッフが山口に集まり、ここでしかできない事業を様々に展開しています。



5年分の
アルバムを
のぞいてみよう。



YCAM Event Chronicle

- ◎山口アートマネジメント隊・アーティストがまちにやってくる「出会いの茶話会」
- ◎藤幡正樹「Off-Sense」展 (会場:ばそら)
- ◎山口アートマネジメント隊・きむらとしろうじんじん「野点・焼立器飲茶美味窯付移動車」(会場:市内9カ所)
- ◎山口アートマネジメント隊・藤 浩志「ヌイグルミシアター」(会場:駅通り)
- ◎ステーション・ハウス・オペラ公演「ロードメタル・スイートブレット」
- ◎山口アートマネジメント隊・小山田 徹(team neisy)「大きな食卓VOL.0手巻きずし」(会場:旧葉香亭)
- ◎山口アートマネジメント隊・野村 誠「野村さんと遊ぼう」(会場:市内2カ所)
- ◎I・S・O [一葉儀光・Sachiko M・大友良英] 伊藤篤彦、小島 剛 (会場:常永寺・雪舟庭) ほか

- ◎中居伊織 レクチャー+ワークショップ「streetscape yamaguchi」
- ◎ラファエル・ロサノニヘメル「アモーダル・サスペンション〜飛び交う光のメッセージ」
- ◎フィリップ・ドックフレ国際共同制作公演「IRIS」
- ◎「メディア・ソケット〜多層なる創造圏」展
- ◎山口アートマネジメント隊・野村 誠 コンサート「しょうぎ交響曲誕生」
- ◎コミュニティシネマ山口スタート
- ◎フランス・ダンス・03公演「ヘリコプター」春の祭典」
- ◎二兎社 演劇公演「萩家の三姉妹」
- ◎一人芝居「イッセー尾形スペシャル in 山口」
- ◎大友良英「Solo live」/「ANODE」 ほか

- ◎ダムタイプ「Voyages」展/ダンス公演「Voyage」
- ◎池田亮司サウンドパフォーマンス「C1J」formula[ver.2.2]」
- ◎山口アートマネジメント隊・team neisy「そこらへんのコト」展
- ◎シリーズ科学とアートの対話 #1 三上晴子+市川創太「gravicells—重力と抵抗」展
- ◎meets the artist 2004 佐藤時啓「カメラオブスクラ・プロジェクト」
- ◎劇団 〆ダンダンプエノ 演劇公演「バナナが好きな人」
- ◎映画上映+レクチャー「シリーズ映画史を読み解く」スタート
- ◎ダンス公演「Refined Colors」
- ◎Study of Live works 発条ト ダンス公演「Runnin' ChorDrive」 ほか

- ◎クワクボリョウタ「R/V」展
- ◎シリーズ科学とアートの対話 #2 「時間旅行」展
- ◎演劇公演「お父さんの恋 Family Tale」
- ◎公演「山口ラーメンズライブ」
- ◎内橋和久+UA サウンドパフォーマンス「path」
- ◎真夏の夜の星空上映会「ホテル・ハイビスカス」
- ◎日独共同創造演劇プロジェクト「四谷怪談」
- ◎ワークショップ「ケータイスパイ大作戦」
- ◎meets the artist 2005 フタバコン オモイデコレクタス活動
- ◎ジャン＝パティスト・アンドレ ダンス公演「(HiDDEN FACES)/FACES CACHÉES/隠された面)」
- ◎ニナ・フィッシャー&マロアン・エル・サニ「Radio Solaris」展
- ◎カールステン・ニコライ「syn chron」展 ほか

- ◎ドイツ座 演劇公演「エミーリア・ガロッチェ」
- ◎exonemo「WORLD B/意識を裏返し、B面をPLAYせよ」展
- ◎「MAPPING SOUND INSTALLATION」(「filmachine」ほか)展
- ◎alva noto + ryuichi sakamoto コンサート「insen」
- ◎第21回国民文化祭・やまぐち2006メディア芸術祭「モジュロープ—つくる、つながる、うごきます」ほか
- ◎ポール＝アンドレ・フォルティエ ダンス公演「30×30」/「1×60」
- ◎日豪ダンスコラボレーション「Wanderlust—風来」
- ◎二兎社 演劇公演「書く女」
- ◎公共ホール演劇製作ネットワーク事業「親指ごぞう—ブケッティーン」
- ◎「あいのてさんコンサート」 ほか

YCAM イベントクロニクル

コンピュータや通信機器といったメディア技術と身体をめぐる新しい芸術表現活動を中心に据え、アート作品の展示、演劇、ダンスなどの舞台公演、映画上映、サウンドイベント、ワークショップやレクチャー等を数多く開催してきた山口情報芸術センター(YCAM)。YCAMがこの5年間でどのような活動をしてきたのか、ちよつとのぞいてみましょう。

イベント開始。

山口の街を舞台に、アーティストと市民が共同でアートプロジェクトを企画・実施する「山口アートマネジメント隊」を結成。そのほか、市内の様々な場所でシンポジウムや展覧会、ワークショップ、レクチャー、サウンドイベントなどをイベントとして行った。



「アモーダル・サスペンション」



「IRIS」 photo: 宮内 勝 (財) 神奈川芸術文化財団

●11月1日に山口情報芸術センターがオープン。YCAMの上空を光線が覆うラファエル・ロサノニヘメルのプロジェクトと、アルベールビル冬季オリンピックの開会式を若干30歳で一任された経歴をもつフィリップ・ドックフレの国際共同制作による舞台公演など世界規模の作品が山口で制作され、オープニングを彩る。

観客参加型のものが多いことがあげられます。作品を体験することで、ただ単に楽しむだけでなく、現代の社会の中で情報と人とがどのように密接に関わっているかを学ぶことができます。

しかも、YCAMのアート作品は入場無料。そのため、誰でも気軽に、そして何度でも足を運べるようになっていきます。図書館に行った帰り道などでも自由に体験することができます。

また、YCAMは新しいオリジナル作品を制作・発表することに重点をおいています。従来のような美術館とは違い、作品を買い取りコレクションするということはしていません。国内外のアーティストが長期間山口に滞在して制作・発表するというスタイルをとっており、ここ山口から世界に向けて作品を次々に生み出しています。最近山口で制作された作品が海外の大きなアートフェスティバルや美術館での展示に招かれるなど、世界を巡回し、国際的に高い評価を得ています。

制作アーティストの声



三上晴子

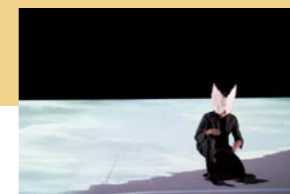
(アーティスト/多摩美術大学准教授)

メディアアートの新作を充実した施設の中で滞在しながら、作品制作に集中できるYCAMは世界でも稀な存在である。私たちが2004年にYCAMで滞在制作した「gravicells (グラヴィセルズ)」は5月のプレミア展示後、ロッテルダム(オランダ)、ベルリン(ドイツ)、トリノ(イタリア)、クリティク&モブージュ(フランス)、リンツ(オーストリア)、ヒホン(スペイン)、ケベック(カナダ)、カナリア諸島(スペイン領)に招待され、現在「オープン・スペース2008」NTTインターコミュニケーションセンター[ICC](東京)にて09年3月まで展示されている。このようにグラヴィセルズは世界9カ国、11の展覧会に出品し、世界各地の新聞や雑誌などのメディアで取り上げて頂いた。そして展示する度に、観客や関係者からこの作品を制作したYCAMへの質問も多く、海外では大変な興味を持たれ、今後は最も期待されているアートセンターである。



「gravicells—重力と抵抗」

●オープン2年目で来館者が100万人を突破。
●アーティスト・三上晴子と建築家・市川創太による滞在制作作品「gravicells」を発表。山口での公開後、各国を巡回し、様々な反響を呼ぶ。



「(HIDDEN FACES)/FACES CACHÉES/隠された面)」

●「お父さんの恋」や「ラーメンズ」などが完売御礼。また、若手振付家ジャン＝パティストの新作を山口と東京で発表した。映画では「真夏の夜の星空上映会」がスタート。毎年多くの人が見に来る夏の夜の風物詩になった。



「モジュロープ」

●YCAM教育普及スタッフが県内の小中学校を回り、動くおもちゃをパソコン上でつくるソフト「モジュロープ」の出張ワークショップを行った。作られた作品はYCAMでも展示・公開。子どもから大人まで幅広い世代の来館者が作品に興味を持ち鑑賞した。

いつでもアートが体験できる場所

YCAMはアート作品が何と言っても特徴的。メディアアートという近年注目されるこれらの作品は、コンピュータやネットワークを駆使したメディア技術を取り入れることで、リアルタイムに情報データを更新させ、鑑賞者が映像や音を変化させて楽しむインタラクティブ(双方向性)な

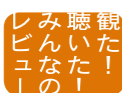
アーティストの息づかいが聞こえてきそうな濃密な空間で味わう身体表現

YCAMは演劇やダンス、パフォーマンスといった身体を使った舞台作品をライブ感たっぷりに味わうのに適した施設でもあります。その理由として客席から舞台までの距離が近いこと、ステージの奥行きが広くダイナミックな表現が可能で、さらに舞台の形を様々なに変化できることがあげられます。そういった特性を生かして、親しみやすい舞台公演から世界的に評価の高い作品まで地方都市で見られる機会の少ない舞台作品を上演し、様々な形で身体表現に触れる機会を提供しています。また、アート事業と同様に国内外で活躍するアーティストが山口に結集し、身体表現と映像、音響、照明、メディア技術とを融合させ、新しい舞台作品を制作。そこで出来上がったばかりの作品を世界で初めて上演。他国でも注目を集め、アジ

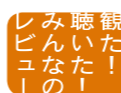
アやヨーロッパでのツアー公演を行う機会が増えています。

YCAMと市民をつなぐ教育普及

アートとシアター事業の2つの柱と並んで、教育普及はこれらの作品における新しい芸術表現と市民とをつなぐ役割を果たすもう一つの大きな柱と言えます。教育普及は、メディア技術を用いた新しい表現について「触れたことがない」、または「もっと知りたい」と考えている鑑賞者が、より有意義に作品を楽しめるようサポートし、様々なプログラムを企画実施してきました。具体的にはアート展のギャラリートツアーや、身体表現を主にしたワークショップ、舞台作品の鑑賞のポイントを茶話会形式でレクチャーするシリーズ、子ども向けのワークショップなど。また市民がアーティストと半年から1年という長期間にわたって一つのテーマをもとに山口の街を見つめ直すプロジェクト「meets the artist」シリーズ



- ◎衝撃的でした。私にとっては難しかったですが、演じている方々の身体の動きがとても美しかったのが印象に残りました。(20代女性 ジル・ジョバン「Text to Speech」より)
- ◎未知の体験でした。音が出たり、入ったり、ただよったり、音自体がダイナミックに動いているみたいでした。(20代男性 「大友良英 / ENSEMBLES」展ライブ「Musics」より)
- ◎おぼけ屋敷みたい。ところどころ本当に怖い。あのドラム缶には心臓が止まるかと思った。でも面白い！(10代男性 「大友良英 / ENSEMBLES」展 作品「orchestras」より)



- ◎カエルの鳴き声が生命のつながりの声だと教えていただいたこと、言葉で言いきれない世界を言葉にしようとした中世の詩の世界など、とてもいいことを教えていただきました。(30代女性 「心平のカエルと中世のカエル」トークイベントより)
- ◎難しいけれども面白かったです。楽しめるより、考えさせるものでした。アフタートークはとても参考になりました。(50代男性 ジル・ジョバン「Text to Speech」より)
- ◎異世界に入った感覚。自分の影もスクリーンに写っておもしろかったです。(20代男性 「大友良英 / ENSEMBLES」展 作品「quartets」より)

◎坂本龍一+高谷史郎
「LIFE-fluid,invisible,inaudible ...」展

◎YCAM パフォーマンスラウンジ#1
チュルフィッチュ「三月の5日間」

◎meets the artist 2007
吉岡 洋「編集ワークショップ」

◎「踊りに行くぜ!! vol.8」選考会+公演

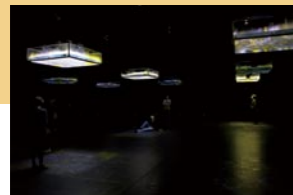
◎「中原中也のつくり方ワークショップ」+発表公演

◎ダンス公演「混舞DANCE MIX」

◎「夏休みクリケットワークショップ」

◎白井剛×川口隆夫×藤本隆行
滞在制作公演「true/本当のこと」

◎ダブルネガティブス・アーキテクチャー
「Corpora in Si(gh)te」展 ほか



「LIFE-fluid,invisible,inaudible ...」

●総入場者数が300万人を超える。

●坂本龍一とダムタイプの高谷史郎によるアート作品「LIFE」が、過去最高入場者数を記録。床に座ったり、天井から吊られた水槽の真下で寝こんで観るなど自由に鑑賞。その後、東京で巡回展が行われた。

をこれまで4回実施。多くの市民が参加し、創造的な活動に関わることの楽しさを発見しています。今後は教育機関との連携による事業や、オリジナルの教育プログラムを研究開発し、YCAMならではの教育普及プログラムの発信を進めていきます。

アーティストの構想を作品へ。 制作の現場を支える

YCAM InterLab

これらアートや舞台作品、教育普及プログラムの研究・制作・発表に大きく貢献しているのがYCAMの制作部門であるYCAM InterLab(インターラボ)。アーティストが芸術創造活動を行うための制作環境を整え、最新技術を日々研究開発しています。アーティストのアイデアや要望を、高度なメディア技術と優れた情報機器をフルに使って、作品に実現します。YCAMはジャンルと国境を超えたアーティストやエンジニアが集まり、InterLabとの共同作業を行いながら新しい作品を発信してい

◎「Select CINE TECTONICS」シリーズがスタート

◎池田亮司「datamatics」展

◎YCAM パフォーマンスラウンジ#3
まことクラヴ「事情地域(山口編)」

◎ジル・ジョバン ダンス公演「Text to Speech」

◎「大友良英 / ENSEMBLES」展

◎YCAM5周年記念シンポジウム

◎meets the artist 2008
高山 明+瀬藤康嗣「パフォーマンスを作る
パフォーマンスワークショップ+発表公演」(本誌p.9参照)

◎「ミニナム インターフェース」展

「ミニナム インターフェース」展

2008年11月1日(土)~2009年2月8日(日)

12:00~19:00 (土日祝は10:00~)

会場:山口情報芸術センター 館内各所



「reac Table」 photo: Xavier Sivecas

【料金】無料

アートやデザインの視点からとらえるインターフェースの多様性を紹介するグループ展。卓上でオブジェを自由に動かし、音と映像を操作する新しい電子楽器、観客が近づくと変化する建築オブジェなど身体感覚に直接うったえる作品がそろつ。

る場所として、徐々に世界から認められ始めています。そのことは、山口で生み出された作品が、世界各地を巡回して観客をあっど驚かせていることからもうかがえるのではないのでしょうか。

これからも成長していく YCAM

YCAMはまだ生み出されていない(それゆえにまだ評価が決まっていない)価値を創造・開拓することに焦点を置いている施設です。新しい可能性を探求する人々が集い交流し、今後もYCAMは世界に向けて最先端の作品を通じて情報を発信していきます。それと同時に、いつでも体験できるアート作品や、時に笑い転げ、涙し、憧れ、驚く舞台作品、すっかりお馴染みになった週末の映画上映、楽しく学ぶワークショップなど、刺激がいっぱいの体験の場として、またくつろぎと憩いの場として愛される施設として、みなさんの訪問と笑顔をお待ちしています。

◎「YUDA ART PROJECT」

◎パフォーマンス公演「Op.∞」(本誌p.9参照)

◎珍しいキノコ舞踊団×plalaxによる新作ダンス公演
ほか

「YUDA ART PROJECT」

2008年11月21日(金)~12月27日(土)

10:00~20:00 ※作品によって異なります。

会場:湯田温泉地区各所



「Array」 photo: James Medcraft (UVA)

【料金】無料

観光客や市民でにぎわう「湯田温泉」を舞台に、国内外で活躍する3組のアーティストが作品を展示。人の動きに反応して変化する光の作品や、足湯を舞台にしたアニメーション作品など、湯田温泉の名所をめぐるながら新しい「街」の魅力体験できる。

市民の声 YCAMの不思議な空間に魅せられた

古川綾子
(山口ユネスコ協会代表)

このセンターの中央公園側の入り口から、ふと北東の空を見上げるとサビエル記念聖堂の塔が浮き立つ。なんと幸せな場所なのだろう。館内に一歩入ると私の気づかなかった世界を創り出してくれる楽しい空間がある。先日、「大友良英 / ENSEMBLES」展を見学。暗室になっているスタジオに入る。横になって天井を見る。古いタンスに水屋、使い込まれた生活用具など、昔の暮らしを思い出させるものが置かれている。当たる光のスポットの動きが視覚を楽しませてくれる。流れる音は、ノイズミュージックか、電子音響か。子守唄も聞かれ、遠い記憶がよみがえる。以前、ここに、留学生を案内したところ、今まで見たことのないような立派な施設だと感嘆し、新しい山口の顔を認識したようであった。芸術は言葉でなく、心で感じる世界。感性が響き合い結びあう世界なのである。

YCAM開館5周年記念 シンポジウム

2008年11月1日(土)~3日(月・祝)

会場:山口情報芸術センター スタジオA

YCAMのこれまでの活動と成果を紹介しながら、専門家やアーティスト、YCAMスタッフがそれぞれの立場からディスカッションを行います。「これからのアートセンターがアートとメディアを素材にどんなふうに社会と関わることができるのか、またYCAMが今後どんなアートセンターに成長していくのか、夢が広がるようなシンポジウムになると思います」とは、今回のシンポジウムを取りまとめているInterLabマネージャー福田幹さんの言葉。YCAMの活動を総合的に知ることができるシンポジウムをお逃しなく!

YCAMの活動をまとめた カタログを出版準備中。

5年間にわたる開催イベントの全記録と、滞在制作によるオリジナル作品を中心に、YCAMのこれまでの活動とその成果を一挙で紹介するカタログを現在制作中です。アート・シアターで展開してきたオリジナル作品に加え、教育普及の活動やYCAMシネマの紹介、さらにアーティストや評論家によるエッセイやインタビュー、メディアアート用語集などを収録。本書では、芸術表現の可能性を探求してきたYCAMの軌跡を振り返りながら、アートと情報メディアの「新しい表現の場のあり方」を考えていきます。発行日が決定次第ホームページ等でご案内します。お楽しみに!

「YCAM作品イベント記録集2003-2008」(仮)

A4変形/日英バイリンガル/価格3,000円(税込)予定

サポートスタッフの声 YCAMを支える

半場 唯
(大学生)
主に展覧会の設営・撤去作業の補助として活躍
サポートスタッフ歴3年

宮崎幸子
(社会人)
主に展示の案内係り、公演のフロントスタッフとして活躍
サポートスタッフ歴4年

自分にとって刺激を得ることができそうな場だと思い、またYCAMに来たのは、坂本龍一さんと高谷史郎のサポートスタッフに登録しました。テクニカルの補助をしてみたいと思ったのは、坂本龍一さんと高谷史郎さんの「LIFE」展を見てからです。できあがった作品はあんなにコンパクトでクールなのですが、みなさんそれぞれが驚くほど汗をかいて1つの作品を作っています。普段の作業は本当に正確で細かく、仕事に行く度に知らない事を教えてもらって帰ってきます。YCAMスタッフはそんな仕事もしてたのか!とよく驚かされます。私はいつも失敗ばかりで常に怒られています(笑)、失敗しても信頼して仕事を頼んでくれるスタッフの方に感謝しています。

展示の案内係りでは、遠方から足を運ばれたお客様との出会いや、ふらりと寄った方が始めはとまどいながら作品を観ていたのが、「面白い!」という表情や笑顔になって帰られると嬉しいです。舞台公演で印象に残ったのは「混舞DANCE MIX」。出演者とスタッフが夜遅くまでリハーサルを重ね、作品を練り上げる様子を見て、並々ならぬ情熱を感じました。いろんなアーティストに直接話を聞く機会がありますが、彼らは鑑賞者の反応をとでも知りたがっているように思います。また何をどう感じてもいい、観る側の自由と言われますが、それはほんのちよっとでも相手に何か届いて欲しいという切実な願いなのかなという気がして、そのお手伝いが少しでもできればと思っています。

観る楽しみを ビュートした の!

◎田原さんは実物の生き物(カエル)を持ち込んでくださり、真実味があつた。自然とつきあっておられる謙虚さと自然の生き物への優しい気持ちがありました。(女性 「心平のカエルと中也のカエル」トークイベントより)
◎ゆっくりのびのび拝見しました。30分くらい眺めてやっとなんか楽しくなってきた。普段は随分あわてて鑑賞しているなど反省しました。(30代女性 「大友良英 / ENSEMBLES」展 作品「quartets」より)

■11月1日(土) 14:00~16:30

「YCAMコミッションワークの軌跡と展望 ~山口発、世界を巡るアート作品~」

[進行]福田 幹(InterLabマネージャー/YCAM)
[パネリスト]千房けん輔・赤岩やえ(アーティスト/exonemo)、藤本隆行(照明家/dumb type)、三上晴子(アーティスト/多摩美術大学准教授)、四方幸子(シニアキュレーター/ICC)、帆足亜紀(アートコーディネーター)、阿部一直(キュレーター/YCAM)

■11月2日(日) 14:00~16:30

「メディアアートとニュープロダクション ~プロダクション・コミュニティの出現と可能性~」

[進行]久保田晃弘(アーティスト/多摩美術大学教授)
[パネリスト]伊藤穰一(クリエイティブ・コモンズCEO)、マルティン・カルテンブルネル(アーティスト)、フィリップ・トロン(シニアエディター/Make)、福田 幹(InterLabマネージャー/YCAM)

■11月3日(月・祝) 14:00~16:30

「発想法を発見する ~アートセンターから発信するもうひとつの教育~」

[進行]鈴木謙介(社会学者)
[パネリスト]阿部初美(演出家)、津田大介(IT・音楽ジャーナリスト)、会田大也(教育普及チーフ/YCAM)

P R E S E N T

YCAM5周年を記念した切手や、過去の作品の関連グッズをプレゼントします。

【申込方法】ご希望の方は下記のプレゼント番号を明記の上、住所・氏名・年齢・電話番号・e-mail等の連絡先、今号の「any」の感想をご記入の上、10月31日(金)までにハガキ(当日消印有効)・FAX・e-mailでご応募ください。 ※当選の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

**A YUDA ART PROJECT
切手シート (5名)**

B カタログ「Mexico」 (1名)
※英・スペイン語バイリンガル

YCAMのオープンを飾った「アモータル・サスペンション—飛びかう光のメッセージ」の制作アーティスト、ラファエル・ロサノ=ヘメルの作品集。

C CD「しょうぎ交響曲の誕生」 (1名)
~しょうぎ作曲の現在とオーケストラの新潮流~

音楽家・野村誠と市民による山口アートマネジメント隊・野村チームによって企画されたコンサート「しょうぎ交響曲の誕生」(2004)で演奏された曲を収録。
※本誌p.12「アーティストボイス」参照。

**D 記念日カレンダー 山口市版
「ココにある日常・ソコにある思い出」 (3名)**
~山口さんちの365日~

長期ワークショップ「meets the artist 2005」で、アーティストユニット・フタバコンとオモイデコロクタス(市民コラボレーター)がたぐさんの人たちから思い出写真を収集し、制作した日めくり万年カレンダー。

**E DVD
「LIFE - fluid, invisible, inaudible ...」 (1名)**

音楽家・坂本龍一とアーティスト高谷史郎がサウンドと映像による新たな表現の試みを行った展覧会「LIFE - fluid, invisible, inaudible ...」(2007)の記録映像を収録したDVD。

【あて先】〒753-0075 山口市中園町7-7
(財)山口市文化振興財団
「YCAM5周年記念プレゼント」プレゼント係
FAX:083-901-2216 e-mail: any@ycfcp.or.jp



【インターフェース】2つのもの間の境界面、接点のこと。コンピュータ用語では、人間とコンピュータをつなぐもの、また接点となるプログラムや機器のことを言います。たとえばマウスやキーボードも、コンピュータと人との間で情報のやり取りを仲介する接点・装置としてあげられるでしょう。今回の「ミニナム・インターフェース」展ではユニークなインターフェースのアイデアを、映像・写真・建築オブジェ・プロダクトデザイン等で紹介します。



高揚する秋 気持ちは

山や木々が明るく彩られる秋、気分がうきうきしてきます。心躍る時間を過ごしてみたい！ そんなふうに思っている方は、ぜひ3館がこの秋お届けするイベントにお出かけください。山口情報芸術センターでは、商店街を旅するようにめぐる演劇パフォーマンスと、音楽・科学・身体の動きを融合した実験的ダンスパフォーマンスの2つの作品によって、これまでにない新しい形の舞台表現をご紹介します。中原中也記念館では、詩と陶芸作品のコラボレーションによって中也の詩に新たな魅力を加えるような企画展を行います。また、山口市民会館では、世界的な名作を現代の感性で磨き上げたミュージカルをご堪能ください。たくさんの刺激があなたを待っています。

A	A	B
C	D	
	A	
	B	

- A. ツアー・パフォーマンス「山口市営P」
- B. 「美と痛み—大和保男の陶と中原中也」
- C. 「サウンドオブミュージック」
- D. 「Op.∞」

PICK UP EVENT! AUTUMN 2008
ピックアップイベント

山口情報芸術センター (YCAM)

<http://www.ycam.jp/>

meets the artist 2008

ツアー・パフォーマンス「山口市営P」

2008年12月5日(金)～7日(日) ツアー出発時間 各日12:30～15:30

会場: 山口市中心商店街

※小グループごとに個別にスタートします。1グループのツアー所要時間約90分。階段の昇降を含む徒歩のコースになります。詳しくはお問い合わせください。

山口の商店街を演劇的視点でめぐる

演出家として国内外で幅広く活躍する高山明と、ネット上での音楽制作などメディアを用いた作品制作で注目される瀬藤康嗣を迎えて、市民と一緒に一つ

のパフォーマンスを作り上げるプロジェクトを6月から開催。12月までの半年間で企画を練り上げ、最終的に山口の商店街を舞台にしたツアー・パフォーマンスを行います。観客は、劇場で上演される作品を観るのではなく、自らさまざまな場所を訪れ、そこに用意された仕掛けや風景に遭遇しながら商店街の中をめぐっていきます。どんな出会いが待っているのか？商店街がたどってきた歴史や中にいる人々の関係性が垣間見え、自分たちが住む山口の街を別の視点で眺めることができます。



わたしはココに注目する!

ツアー・パフォーマンスという風変わりなスタイルに注目！上演される作品として“街”を捉え直してみるとき、日ごろ暮らしている山口もちょっと違って見えてくるかも!?

チケット情報 一般発売 10月5日(日)～ ※インターネットでの販売はございません。

料金 1,800円 ※小学3年生以下 参加不可

※下記「Op.∞」とのセット券あり。一般 3,300円 any会員/特別割引 3,000円 電話・窓口のみの受付(12/4まで販売)

[演出・構成] 高山 明 (Port B) [メディアディレクション] 瀬藤康嗣 (flow)

[リサーチ・アトラクション制作] meets the artist 2008 市民コラボレータ

パフォーマンス公演

「Op.∞ (オーパス・アンフィニティ)」

2008年12月20日(土) 19:00開演 / 21日(日) 14:00開演

会場: スタジオA

※21日(日)の公演終了後、ポストトークあり。20日(土)・21日(日)のチケット半券をお持ちの方も入場可。

チェロ×ダンス×テクノロジーのコラボレーション



参考写真:「Op.8」

現代音楽界の重鎮ピエール・ブレーズが創設したアンサンブルのトップチェリスト、エリック＝マリア・クチュリエによるチェロの生演奏と、元フランクフルトバレエ団のダンサーであり、ウィリアム・フォーサイスにも高く評価されているリチャード・シーガルの驚くべき身体能力とが舞台上で交差するダンスパフォーマンス。フランス国立音響音楽研究所(イルカム)の

協力で開発されたシステムを使い、センサーによって解析されるダンサーの動きと、音楽家が生み出す音との関係性を科学的かつ芸術的に探究した実験的作品。山口で日本初演、しかも国内唯一の公演となります。作曲は、海外でも活躍の幅を広げる若手作曲家、伊藤暁が担当。ドイツ、フランス、アメリカ、日本の第一線で活躍するアーティストの競演をお楽しみください。

わたしはココに注目する!

ダンス、現代音楽、プログラミングにおける世界のトップレベルのアーティスト、研究者だけではなく、哲学者、数学者も参加。実験的身体表現の進行形をYCAMが独占紹介します。

チケット情報 一般発売 10月5日(日)～

料金 全席自由(整理番号付) 前売 一般 2,000円 any会員/特別割引 1,700円

当日 一般 2,300円

※上記「山口市営P」とのセット券あり。一般 3,300円 any会員/特別割引 3,000円 電話・窓口のみの受付(12/4まで販売)

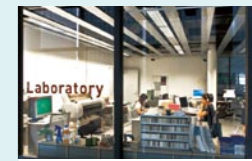
[演出・振付] リチャード・シーガル [作曲] 伊藤 暁

[出演] リチャード・シーガル(ダンサー)、エリック＝マリア・クチュリエ(チェリスト)、ケニス・フラック(ダンサー)

- 特別割引: 青少年(18歳未満)、シニア(65歳以上)、障がい者及び同行の介護者1名が対象。
- いずれの公演も当日券は各種割引の対象外となります。
- 特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
- 特に記載のない場合、未就学時入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

解体

ワイカム・インターラボ
YCAM InterLab



「ラボ(Lab, Laboratory)」には、「研究機関・実験室」という意味があります。YCAM InterLabには、新しい技術を芸術表現に応用するための実験の場、あるいは作品が生み出される創造の場としての機能を果たすために、照明・音響・映像・舞台機構・プログラミング・ネットワーク技術・デザインなどのスペシャリストがそろっています。単なる劇場にいる舞台スタッフという枠を飛び越えて、YCAMに来るアーティストが新しい作品に挑戦し、それを完成させるための環境と技術を整えた制作プロダクションとしての役割を担うラボスタッフ。YCAMのチラシやパンフレットなどでこの言葉を見た時は、その陰に彼らの活躍があることを思い出してください。

先行チケット
発売情報
早チケ
any会員
先行予約
12月6日

珍しいキノコ舞踊団 × プラブラックス plaplaxによる 新作ダンス公演

2009年2月28日(土)、3月1日(日)
会場: 山口情報芸術センター
スタジオA



©Yohta Kataoka

日常の風景やしぐさを感じさせるダンスで、映画や美術界からも熱い視線を受けるカンパニー、珍しいキノコ舞踊団。また、観客が触れると思わぬ反応をみせるインタラクティブなアート作品などで子供から大人まで楽しめるユニット、plaplax(プラブラックス)。ジャンルは異なるものの、どちらもポップでキュート、見るものを幸せにする2組がYCAMで今回初めての共同制作を行います。一体どんな作品が飛び出すのか、乞うご期待!

[チケット発売]

any会員先行予約 12月6日(土)～

一般発売 12月13日(土)～

[料金] 全席自由(整理番号付)

前売 一般 2,500円

any会員 2,200円

当日 2,800円

中原中也記念館

http://www.chuyakan.jp/

企画展Ⅱ

「美と痛み—大和保男の陶と中原中也」

2008年10月1日(水)～12月14日(日)

時を越え、現代の陶芸作家と中也が出会う



裸像(夏)

陶芸作家として萩焼に新たな造形美を追究し続けている大和保男。作陶活動の一方、エッセイや小説などの文筆活動にも精力を傾ける彼が、中原中也の詩の世界とその根源にある芸術観に触れることによって、全く新しい陶芸作品の制作に挑みました。

展示は陶芸作品と中也の詩、そして彼のエッセイが組み合わされる形で構成され、造形による表現と言葉による表現が共鳴して独自の美の世界を創り出します。

大和保男も中也も同じ山口の地に生まれ育ち、それぞれの世界を築き上げています。およそ70年の時を隔てて2人の芸術家の魂が触れあう時、そこに何が生まれるのか…。中原中也記念館が以前から取り組んできた、文学と他分野とのコラボレーション企画第9弾。お楽しみに!!

わたしはココに注目する!

展示される陶芸作品は、ほとんどが本展覧会のために作られた新作です。詩と造形との出会いが生み出す新たな美の世界をたっぷり味わってください。

料金 一般 310円(262円) / 大学生 210円(157円) / 小中高生 150円(105円)
※70才以上は無料 ※()内は20人以上団体料金

検定 中也



Q 1933(昭和8)年、26歳のとき、中也は親の勧めに従い遠縁の上野孝子と結婚します。披露宴は、中也記念館(中也の生家跡)からほど近い西村屋旅館で行われました。写真はそこの記念写真ですが、実はこれを撮るとき、カメラマンはあることのために大変苦労したそうです。では、苦労の原因は何だったのでしょうか?

- 1 2人の仲が悪い
- 2 新郎の方が背が低い
- 3 新婦が酔って立てない

答えは14ページ

山口市民会館

http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/

ミュージカル

「サウンド オブ ミュージック」

2008年11月23日(日・祝) 18:00開演

会場:大ホール

トラップ一家の歌声がアルプスの山々に響きわたる

お転婆の見習い修道女マリアは、厳格な退役軍人トラップ大佐の家に家庭教師として派遣され、7人の子もたちと“歌”を通じて心を通わせあうようになる。始めは衝突していたトラップ大佐とマリアだったが、やがて惹かれあい結婚。だが、幸せな生活もつかの間、オーストリアに戦争の暗い影が忍び寄り…。ナチスドイツが攻めてくる中で、一家は亡命を決意。つらい旅のなかでも、家族は明るく前向きに生きていく。



実在するトラップ一家の物語をミュージカル化し、ブロードウェイでの上演がロングランヒットを記録、また映画によって一躍世界中にファンを生み出した「サウンド オブ ミュージック」。天真爛漫なマリアと子どもたちの明るい歌声が、勇気と生きる力を与えてくれる感動作です。日本でも何度となく上演され、作品の中に登場する「ドレミの歌」や「エーデルワイス」は、いまや知らない人のいないポピュラーな曲に。

主演マリアには期待の新進中村香織を起用。抜群の美声と歌唱力で、観客を魅了します。トラップ大佐役には、ベテラン俳優としての演技力はもちろん、知性と品格も備えた辰巳琢郎を迎え、また「ドレミの歌」の日本語作詞者として知られるベギー葉山が特別ゲストで出演するなど豪華キャストでお届けします。

わたしはココに注目する!

ブロードウェイでの初演を観た夜に、無我夢中で「ドレミの歌」の作詞をしたというベギー葉山さん。日本の子どもたちと一緒に歌いたい! そんな思いから生まれた歌詞をじっくり聴いてみてください。

チケット情報 発売中

料金 全席指定 一般 S席 6,000円 / A席 5,000円 / B席 4,000円 / 高校生以下 各半額
※any会員は一般料金より各500円引き

[演出・訳詞] 西田直木

[出演] 中村香織、辰巳琢郎、ベギー葉山、辺見マリ、吉田要士、相原奈保子 ほか

- いずれの公演も当日券は各種割引の対象外となります。
- 特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
- 特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

ホールに おいでませ

瀬戸内寂聴 現代語訳による
白石加代子の
「源氏物語—宇治十帖」

2008年11月4日(火)

18:00開演

会場:山口市民会館 大ホール



「今年は、「源氏物語」が生み出されて千年にあたる記念の年。各方面でも様々な形でとりあげられ、改めて脚光を浴びるこの物語を、

山口でも舞台上で紹介できればと思いついて上演を決めました。白石加代子の卓越した語りの技を通して、今もなお人々の心をとらえ続ける平安王朝の雅な世界と、そこで繰り広げられる人間ドラマが織りなす一大絵巻「源氏物語」の世界に浸っていただければ幸いです」

(やまぐち市民文化の会)

[チケット情報] 発売中

[料金] 全席指定

一般 S席 4,500円 / A席 4,000円

B席 3,000円

大学生以下 各500円引き

※any会員は各300円引き

出演者からのメッセージ

中村香織

(マリア役)

「サウンド オブ ミュージック」の魅力は何と言っても子ども達のキラキラの笑顔。彼らが主役の作品だと思っています。実際に、子ども達が出てくるだけで会場がパッと明るくなります。そして皆さんもよくご存知の名曲の数々、そしてワンシーン毎に見所があり、とても素晴らしい作品です。ぜひご家族の皆さんで観に来てください!



辰巳琢郎

(トラップ大佐役)

トラップ大佐はなかなか演じがいのある面白い役だと思っています。ほとんどの方が映画も見ていて、それぞれにイメージをお持ちだと思いますので、そのイメージをきちんと守りつつ、さらに、新しい魅力を付け加えパワーアップすることで、チャーミングなトラップ大佐になればいいなと思っています。山口でお会いしましょう!



先行チケット
発売情報
早チケ
any会員
先行予約
12月6日

NPO法人子どもステーション
山口共催
前進座「龍の子太郎」

2009年2月13日(金)

18:30開演

会場:山口市民会館 大ホール



創立77年の伝統ある劇団前進座による演劇公演。原作は児童文学作家 松谷みよ子。日本に古くから伝わる民話をもとに書き上げた冒険物語。母を探す旅の中で、人の思いやりに触れ知恵を借りながら成長していく太郎と、彼を応援する動物たち。土着性を残しながら和風様式を取り入れたスケールの大きい、感動的な舞台です。

[チケット発売]
any会員先行予約 12月6日(土)～
一般発売 12月13日(土)～
[料金] 全席指定 ※4歳以上有料
前売 一般 3,000円
any会員 2,500円
当日 3,500円

中也を味わおう

「干物」

秋の日は、干物の匂ひがするよ

外苑の輔道しろじろ、うちつづき、

千駄ヶ谷 森の梢をちろちろと

空を透かして、われわれを

視守る 如し。

秋の日は、干物の匂ひがするよ

干物の、匂ひを嗅いで、うとうとと

秋蟬の鳴く声聞いて、われ寝る

人の世の、もの事すべて思はらし

匂を嗅いで睡ります、ひとひとよ、

秋の日は、干物の匂ひがするよ

「解説コメント」

この詩は一九三〇(昭和五年)の秋、中也が創作ノートとして使っていた早稲田大学の学生ノートの冒頭に書かれたものです。「外苑」千駄ヶ谷の地名がありますが、中也はこの頃千駄ヶ谷に転居、明治神宮の外苑に近い場所に住んでいました。タイトルを「ひもの」と読むのか「ほもの」と読むのか、どちらの可読性もあり、どちらを取るかでイメージも変わってきます。海産物の匂ひなのかそれとも布団や洗濯物の匂ひなのか。海産物の匂ひには海や地方を連想させ、旅愁、郷愁を感じさせますし、布団などの匂ひには秋の日差し、太陽の光や家庭の暖かさが感じられます。中也二十四歳、蟬の声と干物の匂ひに包まれて眠る様子や語調からは、子どものような中也の姿が浮かんでくるのではないのでしょうか?

○中也という四季が有名でよくとりあげられていますが、歴史からの影響があることもよくわかり、新しい発見でした。(「原程」と中原中也)展より)
○東京でもよく大友氏のライブを観ていますが、こうした贅沢なスペースで行われる事はなかなかないので、山口まで来た甲斐がありました。(30代女性 「大友良英 / ENSEMBLES」展ライブ「Musics」より)
○様々な音が融合して、時にビックリするような音もするけど、不思議と心地いい気分になれる演奏会だった。(30代女性 「大友良英 / ENSEMBLES」展ライブ「Musics」より)

any通信

ようやく暑熱が過ぎ、気持ちよい風を感じるようになりました。秋の気配が濃密になるこの季節、みなさんはいかがお過ごしでしょうか？

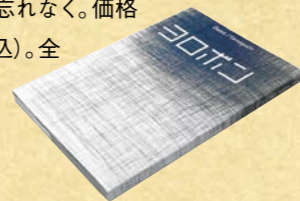


山口のことを語った一癖も二癖もある本。フツの観光本とは違います。

山口情報芸術センターがこの秋刊行するのは、山口をテーマにした本「ヨロボン」。奇妙な名前この本は昨年YCAMで行われたmeets the artist 2007「編集ワークショップ」で誕生しました。哲学者・吉岡洋との公開対談やお弁当コンテストの様子、さらにはプロジェクトに参加した市民コラボレーターの超個人的視点のページなど、読み応えたっぷりの内容です。

「ヨロボンの魅力は何といっても個性のぶつかり合い。中国の辮髪みたいな髪型をした吉岡先生のもとで本を作るというたくらみに集まった人達ですから、編集経験もないせにみんな本に対して一家言もっていて、いろんな決め事をするにも意見がすんなり

まとまったためしが無い。そんな個性のぶつかり合いを無理やりパッケージ化したのが、このヨロボンです」と話すのは、コラボレーターの一人、能勢さん。ちなみにヨロボンって何なのさ、と思われた方は本屋さんに行って背表紙の字をご覧ください。そのまま帰らずご購入もお忘れなく。価格は1,050円(税込)。全国の本屋さんで買えますよ。



自分のすぐ近くにいる「友」のことを考えてみたい。

中原中也記念館で現在開催中のテーマ展示「友情一君と僕との命はかゞり」では、中也と彼の友人たちとの関係を紹介しています。今回、展示にあわせて公開講演が企画

されました。「アサッテの人」(2007)で群像新人文学賞・芥川賞をダブル受賞した作家・諏訪哲史と、展示でも紹介されている中也の友人で安原喜弘の長男、安原喜秀(東海大大学院客員教授)、そして「中原中也の『履歴』」で群像新人文学賞評論部門を受賞した山口県出身の批評家・山岡頼弘という豪華な顔ぶれが集い、中也の友情について深く掘り下げていきます。あなたにとっての「友情」とは？

2008年10月12日(日) 14:00~16:00
会場:ニューメディアプラザ山口 多目的シアター
[料金]無料
■安原喜秀 「大都会の庇護者一岡隆克のテープ発見」
■諏訪哲史 「ダダとボンパとゆやゆよん」
■対談 諏訪哲史 × 山岡頼弘 「現代作家と中原中也」

ARTIST VOICE

アーティスト
ボイス

野村 誠 (音楽家)

山口情報芸術センター(YCAM)が開館する前のプレイベントのころから何度も山口を訪れている野村 誠さん。市民で結成された「山口アートマネジメント隊・野村チーム」と一緒に、音楽教室での交流企画や、アートふる山口でのワークショップ、またオープン時やそれ以後も折に触れYCAMでコンサートを行ってこられました。野村さん、今度は山口で一緒に何しましょう？

「誕生」の次は、「成長」ですよね。



「しょうぎ交響曲の誕生」は、YCAMが開館する2年前(2001年)から、市民ボランティアと3年かけて一緒に考えた企画だ。チラシだけでなく、本に挿むしおりで宣伝したのも、市民のアイデアだった。オーケストラのメンバーも一般公募。作曲する人も一般公募。企画、演奏、作曲、全てが市民

の手によるオーケストラは、世界初かも。特に、餅つきとオーケストラの共演は、感動。ベッタンとつく音と、ヴァイオリンのピチカートが何て心地よい。舞台スタッフも餅つきを最高の照明で演出してくれるし、事務局からは、餅つきが得意な面々が立候補してくるし。このホールの職員は、みんなノリがいい。曲の最後に、お客さんに餅を振る舞って、しかもライブ録音をCD化しちゃいました(まだ聴いてない人、YCAMでも売ってますよ)。ということで、しょうぎ交響曲が誕生して早4年。「誕生」の次は、「成長」ですよね。いつか「しょうぎ交響曲の成長」というコンサートを山口でやりたい、と原稿を書きながら、思いついた。

コンサート
「しょうぎ交響曲の誕生
~しょうぎ作曲の現在とオーケストラの新潮流~」
2004年1月18日(日)
会場:山口情報芸術センター スタジオA



複数の人が将棋を指すように楽器やおもちゃなどで順番に音を出し、絵や文字で楽譜を作っていくオリジナル作曲法「しょうぎ作曲」を用いたワークショップを山口で開催。そこで作られた楽譜をもとに誕生した「しょうぎ交響曲」のお披露目コンサートが、YCAMオープン直後に行われた。演奏の途中、舞台上で餅つきをしたり、紅白饅頭をお客に配るなど観客の度肝を抜く演出が話題を呼んだ。

野村 誠 NOMURA Makoto

1968年生まれ。京都在住。作曲家・鍵盤ハーモニカ奏者・ピアニスト。鍵盤ハーモニカでの路上演奏や老人ホームでの共同作曲など、コンサートホール以外の音楽活動も積極的に行う。また音楽にとどまらず美術・演劇と幅広い分野で活躍している。11月19日(水)頃に、山口駅通りのスタジオイマイチで鍵盤ハーモニカのコンサートを行う予定。詳しくは <http://imaichi.net/> をご覧ください。

お先に
試写
しました



「ハウ・シャオシェンのレッド・バルーン」

(2007年/フランス/113分/カラー)

台湾の名匠ハウ・シャオシェン監督が、アルベール・ラモリスの名作「赤い風船」にオマージュを捧げた「ハウ・シャオシェンのレッド・バルーン」。パリに住む母子と中国人ベビーシッターの交流や日常を淡々と綴っているだけに、美しいシーンの連続にぐっと引き込まれてしまった。例えば、ガラスに映り込む景色や木々の影…。それは誰しもが、日常的に何かのはずみで気が付く美しさにも似ている。空にふわふわと浮かんでいく赤い風船は、まるで登場人物たちを見守っているかのようで、じんわりとした優しさと幸福感を感じさせてくれる。そんなふう、穏やかな時間の流れと共に、様々な感情がスクリーンを通して心地よくわき上がってくるのだ。

観光地だけでなく、路地・遊技場の日常的なバリも登場。ちょっと旅に出かけたい気分になった。同時期に上映する「赤い風船」と「白い馬」は、かの淀川長治さんも賞賛。こちらもあわせて是非ご覧ください。

(作品への愛が溢れる淀川さんのレビューは、パンフレットに掲載)
松富淑香 (YCAM シネマ担当)

12月5日(金)~7日(日)

※上映開始時間はお問い合わせください。

会場:山口情報芸術センター スタジオC

[料金]一般 1,000円 any会員/学生 800円
ジュニア(18歳未満)/シニア(65歳以上)
障害者/介護の同行者1名 500円

[監督]ハウ・シャオシェン
[出演]ジュリエット・ピノッシュ、
イボリット・ジラルド ほか

■その他上映作品

「赤い風船」(1956年/フランス/36分/カラー)

[監督]アルベール・ラモリス [出演]パスカル・ラモリス、サビーヌ・ラモリス ほか
風船と少年の交流を描いた童話のようなストーリー。ラストシーンは愛で溢れている。
※「赤い風船」は絵本としても出版されています。
〔「赤い風船」いわさきちひろ/画/岸田稔子・文/偕成社刊〕

「白い馬」(1953年/フランス/40分/白黒)

[監督]アルベール・ラモリス [出演]アラン・エムリー、ローラン・ロッシュ ほか
南フランスが舞台。モノクロながら、馬の躍動感や強さを感じさせる美しく詩的な作品。



My Favorite

スタジオAのロビーにある階段を3階まであがる途中でみえる風景。赤と黒の色のコントラストや、赤い壁面と交差するブリッジ、また黒の梁との平行線、その奥の中庭につながるパースなど建築空間の立体感がみえて飽きない。

足立明男 (山口情報芸術センター館長)



足立明男

いただきます



ケーキセット(コーヒー付)
1,000円(税込)

セットをお願いします。

出てきた瞬間に思わず驚きの声もれる。「わお!!」シフォンケーキにチーズケーキ、アイスクリームにコーヒーゼリーと盛りだくさんなんですもん。それもひとつひとつが大きいときた。思わずにんまり。「アイス以外は手作り、卵は秋川牧場から取り寄せたり、チョコレートも独自に調合したりと、素材と味にこだわっています」とお店の人。なるほど、この素朴なやさしい味わいはそこからくるのか。シフォンケーキにアイスに乗せれば、これまた格別。甘過ぎず口の中でほろりとほどける軽さに、気がついたらペロリといただいちゃいました。

カフェレストラン「ティアラ」

山口市中央2-5-1(山口市民会館横)
TEL.083-928-2868
営業時間:10:00~20:00 不定休

GOOD GOODS



DVDブックレット

「IMAGINARY CHUYA/
映像としての中世のことば」

映像と言葉がからみあう。

詩人・中原中也の遺した言葉や文章から、コンテンポラリーアート、実験映像、アニメーション、ダンスなど多様なジャンルのアーティスト7組が、自由にイメージを展開し、7つの映像作品に仕上げたDVD。おしゃれなデザインが目を引くこのパッケージの中には、他に制作アーティストに行った座談会やインタビュー、論文などを収録したブックレットも入っています。山口情報芸術センターと中原中也記念館、あるいはネットからも購入ができます(詳しくは <http://www.ycam.jp/> の「ショップ」をご覧ください)。

価格:2,000円(税込) A5版/32P/カラー
参加アーティスト:大木裕之、off nibroll、木村友紀、高嶺 格、布山タルト、堀家敬嗣、前田真二郎

「み聴観
ビんいた
ユなた!
の!」

◎コンテンポラリーダンスは何度見ても、さまざまな表現や考え方、感じ方があるのだと思います。
「これっ!」というはっきりしたものがないので、何度でも見てみたくなります。(20代女性 ジル・ジョバン「Text to Speech」より)
◎見る角度によってプレーヤーがみえにくくなることでプレーヤーの存在が濃くなったり、薄くなったりするような感覚が素敵でした。
(20代男性 「大友良英 / ENSEMBLES」展 作品「quartets」より)

「み聴観
ビんいた
ユなた!
の!」

◎よくわからないなと思っていましたが、わからないなりに楽しませていただきました。
ダンスをこうして見るのは初めてですけど、良い「初めて」になったなと思います。(20代女性 ジル・ジョバン「Text to Speech」より)
◎久々に詩の世界に没り、リフレッシュした気持ちです。草野心平さんの詩の朗読がきけて、よかったです。(60代女性 「『履歴』と中原中也』展より)
◎とてもユニークで楽しいイベントでした。特に心平のカエルことばの詩と日本語訳の朗読は印象的でした。(70代男性 「心平のカエルと中也のカエル」トークイベントより)

10 October

11 November

12 December

掲載内容は9月1日現在のものです。変更場合がありますので、ご了承ください。

山口情報芸術センター (YCAM) http://www.ycam.jp/	アート	開催中 13 「大友良英 / ENSEMBLES」展 ※10/4・5・11・12 ギャラリーツアーあり	1 「ミニナム インターフェース」展	21 YUDA ART PROJECT 会場:湯田温泉地区各所	27				
	ライブ	11 「大友良英 / ENSEMBLES」展 LIVE-3 「Networks」							
	シアター				2021 パフォーマンス公演 「Op.∞」 ※12/22 関連ワークショップあり				
	シネマ	3 5 コミュニティシネマ 「東南角部屋二階の女」	17 19 Select CINE TECTONICS=4 ダニエル・シュミット特集	22 26 文化庁優秀映画鑑賞事業 巨匠が描く、戦後復興の日本	2 3 YCAM作品 アーカイブ上映	8 9 21 23 日仏交流150周年記念 フランス映画の秘宝	28 30 5 7 コミュニティシネマ 「ホウ・シャオシェンの レッド・バルーン」ほか	12 14 「Op.∞」関連映画 「Répons(レボン)」ほか	19 21 Select CINE TECTONICS=5 ペドロ・コスタ監督特集
	その他		1 3 YCAM5周年記念 シンポジウム			5 7 meets the artist 2008 ツアー・パフォーマンス「山口市営P」 会場:山口市中心商店街		17 YCAM茶話会 「Op.∞」 ※チェロのフリーコンサートあり	
山口市民会館 http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/		25 キエフオペラ 「椿姫」	4 白石加代子 「源氏物語—宇治十帖」	23 ミュージカル 「サウンド オブ ミュージック」					
中原中也記念館 http://www.chuyakan.jp/	開催中	常設テーマ展示 「友情—君と僕との命はかまへり」	12 公開講演 「中原中也のいごこち」 会場:ニューメディアプラザ山口						
	1	企画展Ⅱ 「美と痛み—大和保男の陶と中原中也」			14	17 企画展Ⅲ 「中也の兄弟たち」			

[マーク説明] 体験する 参加する 聴く 観る

INFORMATION

■公演チケットのお求めについて

山口市文化振興財団が主催・共催する公演チケットは以下の方法にてご予約・ご購入ください。

予約方法

インターネット 山口市文化振興財団ホームページ (要事前登録・24時間受付)

http://www.ycfcp.or.jp/

※any会員の方は先行予約初日の10:00より、一般の方はプレイガイド発売日の10:00より受付開始。



電話

チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)

TEL. 083-920-6111

窓口

チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)

山口情報芸術センター

※先行予約初日はインターネットまたはお電話のみの受付となり、窓口のご利用は翌日からとなります。

支払方法

クレジットカード インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。

チケットのお受け取りはお近くのセブンイレブンまたは山口情報芸術センターにお越しください。

セブンイレブン

インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。

お近くのセブンイレブンでお支払いいただけます。チケットはその場でお受け取りください。

窓口

※上記予約方法「窓口」参照

■託児サービスについて

山口市文化振興財団では託児サービスを行っています。

※おもちゃ、おむつ、着替え等必要なものはご持参ください。お子様の食事は事前に済ませておいてください。

公演開催時

[対象] 0才(6ヶ月)以上

[料金] 1人につき500円、
2人目以降は1人につき300円

[時間] 開演の30分前から終演後30分まで

[申込方法] 公演日の1週間前までに左記チケットインフォメーションまたは山口情報芸術センターにてお申し込みください。

※公演によっては行わない場合もございます。事前にお問い合わせください。

山口情報芸術センター キッズスペース

[対象] 1才以上

[料金] 1人につき30分150円

[時間] 13:00~17:00 1回2時間まで
(山口市立中央図書館休館日を除く)

[申込方法] 当日、山口情報芸術センターにてお申し込みください。満員の際は順番制となります。

any 会員募集!

※入会方法等、詳しくはお問い合わせください。

any会員は、山口情報芸術センターや山口市民会館などで行われる財団主催・共催の公演や展示、ワークショップ等の情報をいち早くお知らせし、楽しんでいただくための友の会です。公演のチケットが一般の方よりも安く、早く購入できるなどの特典があります。

[年会費] 1,500円+入会金500円 ※会員期間内に更新される場合、入会金は不要です。

[会員期間] 入会日から翌年の入会月末まで

[会員特典] チケットの先行予約および割引購入(公演によっては適用されないものもあります)、情報誌の無料送付、YCAMシネマ・中原中也記念館招待券プレゼントなど



財団法人 **山口市文化振興財団**
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion
〒753-0075 山口市中園町7-7(山口情報芸術センター内)
TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216
http://www.ycfcp.or.jp/ zaidan-info@ycfcp.or.jp

編集後記

今号から増えた連載コラム「いただきます」(p.13)の取材がうまくレポートできずカフェに足を運ぶことが4回! そのたびに食べて食べて食べて...でもこんな美味しい取材なら、やはりきります。ご協力頂いた皆様、ありがとうございました。[M.M]
any編集中は、車の中に家の鍵と車の鍵を閉じ込めたり、家の前に見知らぬ人が倒れていたり(ただの酔っ払いでしたけど)、ドキッとすることが立て続けに。あ〜、びっくりしたな。[M.D]

A 中原中也記念館

〒753-0056 山口市湯田温泉1-11-21
TEL. 083-932-6430 / FAX. 083-932-6431
[開館時間] 9:00~18:00(入館は17:30まで) [5~10月]
9:00~17:00(入館は16:30まで) [11~4月]
[休館日] 月曜(祝祭日の場合は翌日)、毎月最終火曜(変更あり)、年末年始
http://www.chuyakan.jp/ chuyakan@c-able.ne.jp

B 山口情報芸術センター(YCAM)

〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216
[開館時間] 10:00~20:00(夜間イベントのある日は22:00まで)
[休館日] 火曜(祝日の場合は翌日)、年末年始
http://www.ycam.jp/ information@ycam.jp

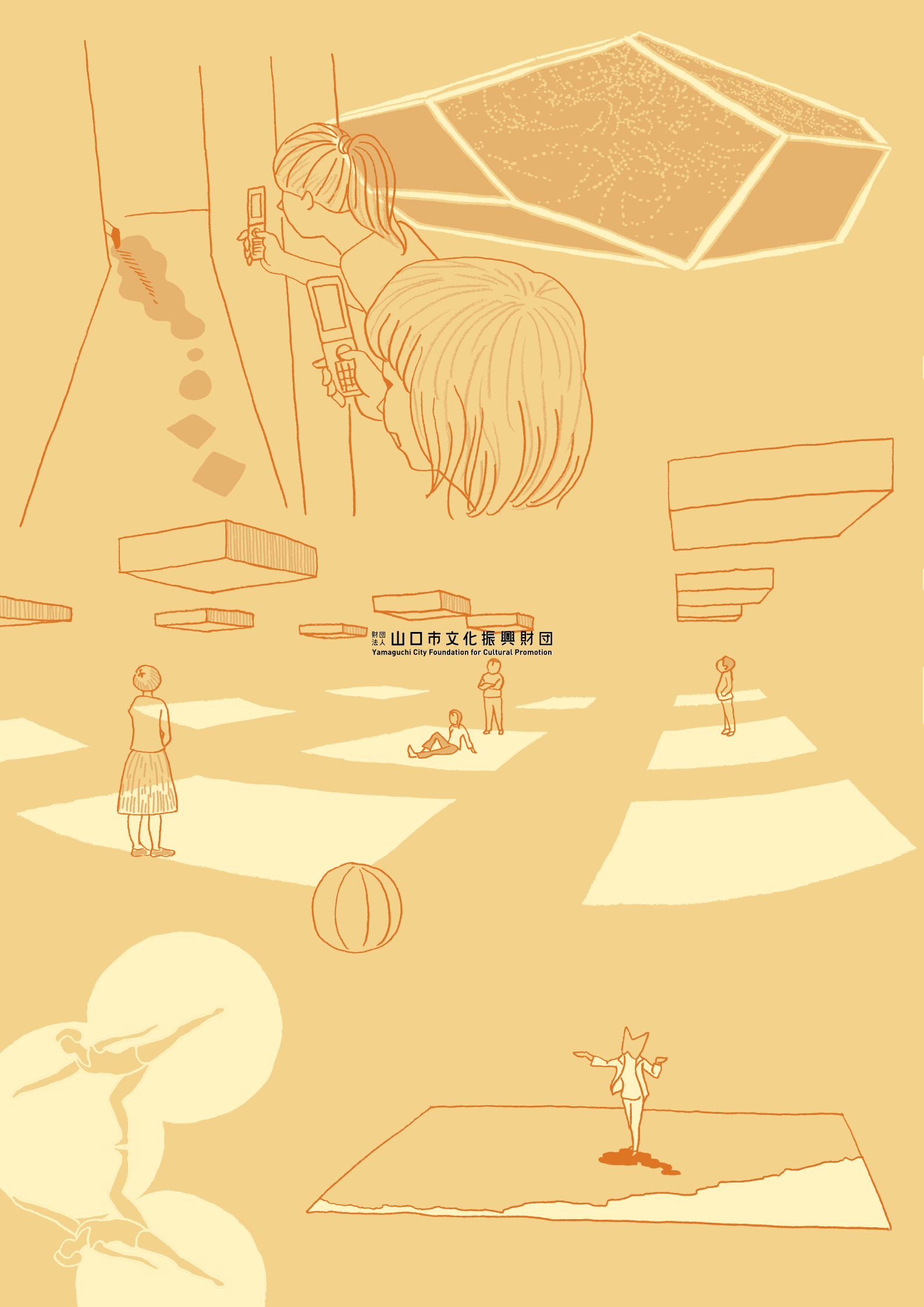
C 山口市民会館

〒753-0074 山口市中央2-5-1
TEL. 083-923-1000 / FAX. 083-928-8488
[開館時間] 8:30~17:15 [休館日] 年末年始
http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/ shiminkk@c-able.ne.jp

検定 中 答 え
A. 2 新郎の方が背が低い (友人の証言によれば、中也の身長は5尺[約150cm]ほど。結局、2cm背の高い孝子を座らせることで決着しましたが、当の2人は笑いをこらえることに必死だったそうです。)

聴 観
み 聴 観
びん いた
ユ なた!
の!

◎初めての世界に触れた感じ。無料でこのような体験ができたことに驚いています。(30代男性 「大友良英 / ENSEMBLES」展 作品「quartets」より)
◎2人の対談としてすぶるおもしろい。この大友展がYCAMでないといけないということがよくわかる対談でしたよ。
(40代男性 「大友良英 / ENSEMBLES」展 大友良英+高橋格ギャラリートークより)
◎1970年代~80年代初期の世界を表現していて、生まれていないにも関わらず懐かしい気持ちになりました。すばらしい! (10代女性 「大友良英 / ENSEMBLES」展 作品「orchestras」より)



財団法人 山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion